

て、齊信卿は清少納言を見じとて、袖をかほにおほひふたき給ひしが、後に清少納言あしからぬ事しれて、かほに袖おほふ事やみし事を、かの草子に、さてのちには袖ぎちやうなどとのけて、おもひなをり給ふめりしと書ける、されば袖几帳と云は、枕几帳、三尺の几帳など云たくひにはあらず、

〔俚言集覽^幾〕几帳面。倭訓栞細工に物の稜を削を几帳面といへり、愚按、元祿二年外宮遷宮記、御櫺三基、以銀銅飾之、臺各有几帳面、柱本末押金薄、俗には物の辻つまあはせ正しくするやうの事をいへり、

差几帳

〔安齋隨筆^{前編十五}〕一差几帳。貞丈云、さし几帳は、女房の行之時、左右に童女を立て、几帳を捧げてもたせて、几帳にて顔を隠して行也、歩障の類也。

〔類聚名物考^{調度五}〕歩障

さし几帳也、道行時に婦人などは、さしかくす物にて、三尺の几帳のほど有り、葬送の時にはわきて用る事、古畫にも見えたり、又は行幸遠所の時にも用らる。

〔空穂物語^{藏開上}〕御ゆどのはてぬれば、女御君いだかまほしうおほせど、ち、おとゞそひる給つれば、うへのをとゞいだき給て、御几帳さ、せていり給て、みやの御かたにふせ奉り給つ、

〔雅亮装束抄^一〕五せち所のこと^{略中}

まいりにはひめ君のくるま^{略中}ひめ君ののぼるすみとり帳^{略中}几は、いづれのもくら人五るのす

るなり、そくたい四人なり、たゞ五せち所へむかふ人は、よきほどなるいくわんにてむかふべきなり、^{略中}

まもつかひのさうぞくの寸法

五せちのはわらは二人なり、^{略中}五せちのまいりをせんには、四人あるべし、ひめ君のぢんより